



# 紙の優しさ

## 中野京子

携帯を持たない私にとっても、今やパソコンの無い生活は考えられない。もちろん原稿もパソコンで、ローマ字入力による横書きだ。書き直しも画面上で行う。何の問題もない。

ところが編集者さんへ添付メールで送る前の最終チェックだけは、絶対に紙に印字したものでなければだめなのだ。なにしろ紙で読んで初めて気づくことが多い。どうしてパソコン上では気づかないのか理由は定かではないけれど、紙でない文章が（あくまで私の場合だが）心に染み入ってこない。

だから電子版の読書も苦手だ。ネットのニュース記事さえ少し長いと途中でやめたくなるのだから、長編小説をじっくり読むなどとうてい無理。慣れの問題だ

ろうとは思いつつ、パソコン画面の文章はあくまでラフスケッチ、書物の体裁を取って初めて完成品、と感じてしまう偏見はいかんともし難い。

紙の良いところはベッドでもどこでも読めて、気になった箇所には赤ボールペンで線を引けること。資料用の歴史書や画集ばかりでなく、気晴らしのミステリ小説にもぐいぐい線を引く。昨今の電子書籍が赤線機能をもつのは知っているが、操作がめんどうだし、自分の手でボールペンを持って引くという動作を伴わないと、内容をしつかり記憶できないような気がする。

それに紙は折ることができる。線を引いたページの上部を、あとで見つけやすいように容赦なく三角に折る。それでもじつと耐えてくれる紙の強さ、優しさよ。優しいといえば、紙風船こそそうだ。

幼い日のことなのですっかり忘れていたが、十六世紀フランドルの画家ブリュゲルの風俗画を見て思い出した。絵の中の小さな子が一生懸命風船を膨らませている。膀胱風船だ。厳しい冬が到来する前に、農民たちは豚を解体し、子



なかの・きょうこ ●作家・独文学者。北海道生まれ。早稲田大学大学院修士課程修了。西洋史や絵画にまつわるエッセイや歴史解説書を数多く執筆。大好評の『怖い絵』『名画の謎』シリーズの他、『美貌のひと』『欲望の名画』など著書多数。

東京・国立新美術館にて

供たちは玩具用に膀胱をもらう。膨らませてボール蹴りに、あるいはガラガラ（中に小石を入れて音を出す）として、時に浮袋として楽しんだらしい。

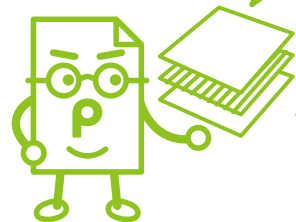
昔むかし自分がこの絵の子供と同じくらいの年頃だったころ、やはり風船を膨らませた記憶が蘇った。動物の内臓ではなく、薄い艶やかな紙でできた、可愛らしい紙風船。親から買い与えられたものではない。年に一度か二度、薬売りの行商のおじさんが家へやって来て、置き薬を交換してゆく。おまけとして子供に紙風船をくれたのだ。ゴム風船しか知らなかったたので、珍しくてとても嬉しかった。ふうふう息を吹き込むと、色とりどりの縞模様の子細な紙が丸く膨らみ、幼い子にぴったりのサイズだった。

血管が浮き出て見えるワイルドな膀胱風船に対して、儂い美しさを醸し出す紙風船。やっぱり後者に軍配を上げたいですね。

### ペーパー君のつ・ぶ・や・き 活動

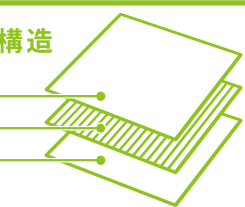
#### 段ボールは、「3」がカギ。

1本ではもろい矢も、3本あわせれば強くなる。段ボールだってそうなんです。ライナと呼ばれる2枚のボール紙と、その間に入っている中しんと呼ばれる波形のボール紙。この3枚で支えあうことで、紙とは思えないほど頑丈に。なんと重さ1t以上のクルマを、段ボール4つで支えられるほどなんです。



#### 段ボールの基本構造

- ボール紙 / ライナ
- 波形ボール紙 / 中しん
- 接着面



紙のことをもっと伝えたい。詳しくは、「ペーパー君のつ・ぶ・や・き」WEBサイトをご覧ください。

<http://kamitsubu.com/>

今回は1月2日・9日合併号、河瀬直美さんです。

提供 ● 日本製紙連合会 <http://www.jpa.gr.jp>

Photo:Shiro Miyake